

全国高等学校総合体育大会フェンシング競技大会

女子サーブル第3位

川俣高校普通科3年

高橋七美

ななみ

さん  
(鶴沢・18歳)

スポーツ  
で輝く  
川俣町の  
原石

## 誰もが認める その実力と努力

高橋七美さんは、7月29日から8月2日まで開催された、全国高等学校総合体育大会（通称インターハイ）フェンシング競技大会に出場し、全国の実力者を相手に、見事、女子サーブル第3位の好成績を残しました。

サーブルという種目は、ハンガリー騎兵隊の剣技から競技化した種目で、剣を使って「カット」とよばれる斬りと、突きで上半身のみを攻撃することができ、15本先取すると勝利となります。数あるフェンシングの種目の中でも、駆け引きの能力とスピードが要求され、勝負を分ける一瞬の豪快な動きが、見る者を魅了する種目です。

高橋さんがフェンシングを始めたのは、小学校2年生の時でした。父親の知人にフェンシングの指導者がいたことから、フェンシング教室に誘われ、気軽な気持ちで友達と参加したところ、剣をもって戦うスポーツの楽しさに魅了されたと言います。

「それまで習い事もしていなかったのですが、なんとなく行ったのがきっかけでした。教室に行けば友だちと剣で遊べるので、遊びの延長のような感覚でフェンシングを続けていました」と高

橋さんは話します。

また、高橋さんがサーブルに挑戦したのは川俣高校に入学してからでした。それまで高橋さんが練習していたフルールという種目で鍛えてきた能力が生かせず苦労したと話します。

「本当は、フェンシングは中学校までと決めていたんです。小学校の高学年になるころにはフェンシングの全国大会に出場できるようになったのですが、思うように結果が残せなくて…でも、いざ辞めようと思ったとき、やっぱり名残惜しくなっちゃって。高校に入学して、ダイナミックな動きが魅力的なサーブルに挑戦しようと思いましたが、でも挑戦してみると、今までやってきたことが全く通用しなくなりまして。種目が変わるだけで、動きも判断力も全く違うものが要求されるんです。挑戦したものの全然勝てなくなっていました。やる気がなくなっていた時期もありました」と高橋さん。



▲アタックの練習をする高橋さん。サーブルでは、素早い攻撃が武器になる。

この日、指導を務めていた佐藤篤志さん（法政大学フェンシング部）は「七美は、人一倍練習も行っていますし、高校生の中では、実力は間違いなくトップレベルです。しかし、勝たなくてはいけないというプレッシャーが彼女自身を今まで苦しめていました。上手に気持ちをコントロールできるようになれば、今回のような良い結果を今後に残せると思います」と話します。

## 負けることから 学んだ自身の弱さ

「高校1年生の時、インターハイ出場をかけた県大会決勝で当時3年生の先輩に負けて以来、もう誰にも負けたくないと思って練習を重ねてきました。全国各地のジュニア（大学2年生以下）の大会にも参加して、自分よりも強い相手に挑んできました。それでもなかなか思うように結果が出なかったのは、この相手には勝てる、勝たなくてはいけないという、自分自身の焦りや緊張が大きかったのだと思います。実はインターハイ前の東北大会はベスト8で、その時の敗戦から、負ける原因は自分自身にあるのだと気づくことができました。それ以来、少しずつですが試合で自分の心をコントロールでき

るようになり、今回のインターハイでも、このような結果を残すことができました」と高橋さんは話します。

## 夢は力強く、 東京五輪金メダル

そんな高橋さんに将来の夢について聞くと、明確な答えが返ってきました。

「夢は東京オリンピックで金メダルを取ることです。卒業後は、大学に進学して、フェンシングを続けます。まずは、1年生の間にジュニアのランキング上位8名に入り、日本代表に選出されます。そして、2、3年生でアジア選手権や世界選手権などに出場し、実績をつくり、22歳で東京オリンピックに出場、優勝を目指します。ちなみにその後は、まだ考えていません」と高橋さんは笑います。

東京オリンピック優勝への道のりは決して簡単なものではないでしょう。しかし、高橋さんの持ち前の明るさと元気があれば、その大きな夢は手の届く場所にあるのではないかと感じます。これからも、町は高橋さんの夢を応援していきます！

大きな夢に向かってガンバレ！  
高橋七美さん！

